SRL Monthly Report 2021. 4
半導体産業の動向と将来に関する独自の分析と解説を中心としたレポート

2021年4月（No.382)

主な内容とページ

国を挙げて半導体支援、果たして？ 1
新規参入段階で有効な国家支援 2
半導体産業でのゲームチェンジと日本の敗退 3
国家管理に向かない属人的な半導体産業 4
米国の国内回帰法案 5
日本はインフラ重視、半導体は無策 6
既存の延長では滅亡、抜本策が不可欠 6
ゲームチェンジとルールチェンジ(SRL だより) 11

国を挙げて半導体支援、果たして？

世界規模で国家による半導体産業への支援が活発化している。

1. 半導体への国家支援は、産業の初期、立ち上げ状態では、力を発揮するが、その後の成長あるいは成熟期では、それほど功を奏さないことを歴史が示している。

2. わが国は、超 LSI 開発では、産業飛躍の原動力となったが、その後の競争力の低下の歯止め、復興策は結果的に失敗。これまでのやり方では限界があることを示している。

3. 世界規模で政府絡みの半導体振興に動いているのは、半導体だけにとどまらず、エネルギー、環境、仕事や生活水準の向上といった人類の課題克服、進歩を得るための手段とみられ、新機軸、新戦略が重要となろう。

ゲームチェンジとルールチェンジ

従来と異なる新たな枠組みに移るゲームチェンジ、同じくルールが時代を変えるルールチェンジの言葉が使われることが増えた。前者は、車での電動化への移行。後者は、女性に対する差別発言が社会的に許されなくなってきたことなど、従来の延長ではなく、がらりと変わったことなどあてはまろう。

これらの変化に適しているのは、恐らく狩猟系で、われわれ農耕系は、対応に遅れがち。いってみれば日本刀と鉄砲、戦艦大和と航空機みたいなものかもしれない。半導体でも、日系メーカーはすばらしいものを作ったが、時代は、廉価大量需要に移り、強みを失った。そして今の時代は、米中激突に入りつつある。

世界に分散した半導体生産は、再び米国に戻る予感がする。手法は、ロボット化、大量だけでなく中量少量多品種高付加価値化である。分散の原因となったコスト高や仕事の魅力なさをひっくり返して国内回帰。今の技術を使えば決して夢ではないと思う。どうだろうか．．．。注目したい。

（大竹　修）

本誌の内容一覧、索引は、SRL ホームページをご利用ください。

http://www.semiconresearch.co.jp/

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL の解釈と分析で表現したものです。

2021 年　版権所有　株式会社 SRL

SRL Monthly Report
2021 年 4 月（毎月 1 回発行）第 32 巻 4 号（通巻 382 号）

発行元：株式会社 SRL
〒188-0014　東京都 西東京市 芝久保町　3-1-35
TEL 042-439-5317 FAX 042-439-5023
編集・発行人/大竹　修

SRL Monthly Report
April　2021,　No.38

Semicon　Research　Ltd.
3-1-35　Shibakubo-Cho, Nishitokyo-City, Tokyo 188-0014　Japan
Mail: info@semiconresearch.co.jp
Publisher/Editor　Osamu Ohtake

© ㈱SRL　2021

購読料金 1 年分（12 号）98,000 円（税別）　107,800 円（税込み）